

## 第9回東栄町医療のあり方検討委員会 議事録要旨

1. 日 時 平成24年12月6日(木) 午後7時～9時10分

2. 場 所 東栄町役場 会議室

3. 出席者 計24名

委員22名

初澤宣亮、佐々木嘉郎、平林光子、伊藤芳孝、平賀英俊、丹羽治男  
鈴木義治、峯田聖子、佐々木徹、佐々木経人、三城富子、杉山知実  
片桐邑司、桂木勇、熊谷廉太郎、鈴田勝美、一野瀬忠義、林敏和  
藤原隆、村上孝治、金田久世、石黒紋加

事務局2名

福祉課 課長 原田英一、保健衛生係長 長谷川伸

その他 0名

4. 欠席者 4名

佐々木加津之、森イツ子、亀山志津子、西尾重光

5. 傍聴人 7名

村本敏美、加藤彰男、神谷庸成、岡田ゆう子、亀山直美  
山本貴子、内藤さゆり

(敬称略・順不同)

6. 議 題

1, グループ討議

しくみ、規模、場所、経営形態(案)について

2, その他

今後の日程について

(開会 19時00分)

丹羽会長

人材確保についてはみなさんに話し合っていたものをまとめたもので、実際、実効性の部分から難易度等いろいろあるが、やれるものとはとにかく手当たり次第、町の施策としてやっていただければと思う。グループ討議については、仕組み、規模、場所、経営形態とをグループの中で、話し合ってもらえればと思う。4つのテーマがそれぞれ独立しているのではなくて、かなりの部分が重なり合っていると考えていただければいいと思う。議論がつきないようなら、次回持ち越しになるかと思うので、ひとまず進んだところまで模造紙に書いて発表していただきたい。実際にやれるかどうかというのも大事なことである。

事務局

前回と同じように1、2、3班とグループをつくっていただいております。

委員

規模で、19床+老健50床、B案の29床+老健40床のところを、説明していただきたい。看護師の数や19床という数字自体がわからない。

丹羽会長

医療法で19床以下は有床診療所扱い。法律上のくくりで、20床をこえると病院として届出しないといけない。19床までは診療所で、人員基準、施設基準が大幅に緩和される。看護師の人員については、基本的には病棟の方で2人夜勤の看護師をおかないといけません。1人では駄目ですので、最低15人管理職を入れると、16人のスタッフがいないと駄目です。

事務局

それでは、グループに分かれてお願いします。

### 「1班・グループ発表」

(内容は省略)

丹羽会長

質問はいかがですか。収入が確保できないと維持は難しいとあるが、このままだと収入を度外視するんですか。

委員

一番の悩みは10年後、現職員が32名退職してしまう。そうした時に医療スタッフの数の確保ができるかどうか非常に大きな問題になってくる。規模を徐々に人的なものから患者さんの数とか、人口だとか含めながら規模を徐々に縮小していくということで、最初から19床の50床ということになしに現状維持を踏まえながら、進めていくというような観点で、収入についての話はできなかった。

**「2班・グループ発表」**

(内容は省略)

丹羽会長

発表について、よろしいか。

**「3班・グループ発表」**

(内容は省略)

丹羽会長

ありがとうございました。最終的にどういう形でまとめるのかというのは、むずかしいところで、項目それぞれ関連がある。主たるものと大体論という形でやらざるをえないが、完全にこれと言う形がないところもあり、議論も深まってこれしかないとなればいいのかと思う。次回について、資料は事前に配布するので、おさらいしてからグループ内の議論をやってほしい。

事務局

第10回目は、1月17日を予定していますので、よろしく申し上げます。

丹羽会長

次回でまとまらなければ、次はいつ頃。

事務局

第11回については、1月31日 木曜日を予定しています。

丹羽会長

そのあたりまでには、なんとか全体としての形をつくりたい。次回が主になり、それに基づいてやりたい。

事務局

以上で、第9回東栄町医療のあり方検討委員会を終わります。  
ありがとうございました。